

15/30Mbps ユニバーサルコーデック（符号化装置）

1982年（昭和57）、国際テレビ伝送標準 CCIR（現 ITU-R）勧告 604 に準拠したコンポーネント信号を用いる 15/30Mbps ユニバーサルコーデックを開発した。このコーデックは、世界のあらゆるテレビ方式に適用できるもので、核となる高能率符号化技術は、動き補償フレーム間・フィールド間・フィールド内適応予測符号化方式である。インテルサットIV号衛星の36MHz帯域トランスポンダ（60Mbps）の一つで、高品質な放送番組を2チャンネル、ニュース番組等を4チャンネル伝送することができる。各種符号化特性に関する評価実験により、静止画から動画まで安定して高い符号化画質が実現できることが実証された。

出典：KDD 社史